

「みちしるべ」あれこれ(1)

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群(4)

「みちしるべ」は漢字では道標と書きます。「追分石」も同じような意味です。

道標は単に道案内の石碑を指すのようですが、追分石の場合は、もっと狭い意味になり、分岐点・分かれ道に「右は〳道、左は〵道」などと、不案内な旅人に行き先の方角を指示するものでした。そうした実例を、あちこちでごらんになったことがあると思います。

「みちしるべ」をいくつか紹介してみようと思いますが、今回は粕屋町にある須恵への道のりを記した石碑(A)を一つ、そして、志免町にある立坑などの文字が刻まれた石碑(B)と、その近くにある同じ田富青年団の立てた石碑(C)の二つ、あわせて三つを紹介してみようと思います。二番目のものが海軍炭鉱・国鉄炭鉱に関する道標です。

石碑Aは粕屋町大隈の西鉄バス「丸山」バス停のすぐ近く、アスファルトに埋め込まれたように立っています。道路拡幅などで移動してここにある、と推測されます。立てられた時代は

不明です。道路に面した方から右回りを見ると(・は石瀧が補足)、

「箱崎一里七合・古賀四里二合・福岡五里三合」
「福岡二里三合・篠栗一里二合・飯塚六里九合」
「須恵一里八合・宇美二里四合・太宰府四里(以下地中で読めず)」

「久原一里・山田一里六合・青柳三里二合・香椎一里九(右同)」

石碑Bは志免町田富。県道の「田富郵便局前」交差点を西へ少し進んだ住宅街の中、田富公民館と向かい合う位置にあります。見通しの悪い、曲がりくねった狭い道が入り組んでいます。それも道標が必要とされた理由のひとつでしょう。一面に「田富青年会」と建設主体の名称が書かれ、そこから左回りに、

「←志免立坑道」
「←海軍第六坑二至」

と書かれ、残る一面には文字がないようです。矢印はいずれも左向きです。立坑は竪坑槽の下に開発された炭坑であり、第六坑は現在の須恵

高校付近にあった炭坑です。いずれも海軍から戦後、国鉄に移管されます。

石碑Cは石碑Bから少し離れたところにある(同じ道沿いと言えますが)、田富四丁目十三番地の民家の塀脇にあります。左に見えるのは庚申尊天の石碑です。

石碑Bと同じく、一面に「田富青年会」とあり、同じ時期に立てられたものであることがわかります。そこから左回りを見ると、

「↓吉原ヲ経テ席田村二至」

「↓縣道(ヲ経テ……この部分難読) 宇美二至」
「←宇美村井野二至」

と書かれています。こちらには炭鉱に関する文字は見当たりませんでした。

写真説明

- A・1 丸山バス停の脇にある道標
- A・2 同 「須恵」と書かれた部分
- B・1 矢印の下に「志免立坑道」と見える。奥は田富公民館
- B・2 「海軍第六坑」と書かれた部分
- C・1 庚申尊天と道標
- C・2 庚申尊天を奥に見る形で撮影。上の方に「縣道」と書かれている。



A-2



A-1



C-2



B-2



C-1



B-1